ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報紙

Take free!

なび

10月号
vol. 092

特集：都市のインフラ

1

Heart&Soul

特集：都市のインフラ

Heart & Soul 1

1.ROSE BARオーナーのBASSさん夫妻
2.ライブ中のダンシング義隆

鶴見橋商店街は、26号線の花園町から阪神高速が走る津守方面につづく、約1キロのモール。大阪では天神橋商店街に次いで長いのです。戦後の経済成長期にあった頃までは、木津川を往来する船舶の運航が盛んで、荷役、造船などの労働者たちが、釜ヶ崎の簡宿と木津川を結ぶ鶴見橋商店街を往還したのでした。当時は、夜中を過ぎても人通りは途切れず、店舗に明かりが絶えなかったと、まちの古老らから何度か聞いたことがあります。

鶴見橋商店街は1番街から8番街まであり、今ではたくさんの店舗が閉鎖し、人通りも寂しくなりつつあります。しかし、音楽好きな人たちがこのまちに参入しはじめ、ミュージックライブを通して、商店街を元気にしていきたいと意気込んでいるのを聞いて、ライブ店の3名のオーナーたちに話を聞かせてもらいました。

お店の様子は、居酒屋風や洋酒バー風のスタイルですが、お客たちはいずれもロック、フォーク、ブルースを熱心に聴きつづけてきた団塊世代の人たちが多く、いわば酒好き、音楽好きたちの寄辺（よるべ）なのです。

インタビュアー：佐々木敏明

鶴見橋商店街8番街は東西におよそ百メートル。街路をはさんで50軒ほどの店舗が向き合い、半数のシャッターは閉じている。商店街を抜けると阪神高速の入口が近い。そのまま西へまっすぐ歩くと南海汐見橋線津守駅に出会う。

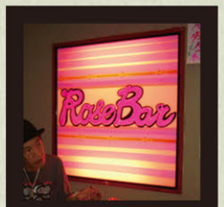
この8番街で、今年7月から開店したのが『ROSE BAR』。「店名はジャニスの愛称から」というオーナーのBASSさん（52歳）。80年代阪神タイガーズに在籍した名選手の名前を自らの愛称にし、70年に27歳の若さで逝ったジャニス・ジョプリンの愛称であるROSEを店舗名にした。ジャニスのようなすごい歌手はこれからも現れない。それは、筆者も含め中年ロック世代のおおかたの認識なのだ。ROSEはその象徴としてつけられたのだろう。

沖縄出身のBASSさんは、もともとDJやミュージックイベントなどのプロディュースをしていて、スティービー・ワンダーやマーヴィン・ゲイなど、ソウルやゴスペルがとくに好きだったという。「50〜70年代の音楽を愛する人たちが、安心してお酒やライブを楽しめる場所づくりをしたかった。これまでつきあってきたミュージシャンや音楽仲間、知人たちとのつながりが今の自分をつくってくれた。そんな人たちともこの場を通して交流を続けていきたい。地域活動として『NEST』（p.5参照）のオーナーたちと連携をとってやっていこうと思っている」と語り、さびれてしまった商店街を、音楽仲間たちと再生していく決意を話してくれた。

「初めてお酒を飲みに来店してくれたお客がライブを見て、ミュージシャンの生な音楽に感動してくれた。これまでたくさんの音楽がつくられてきたが、埋もれてしまった音楽もいっぱいある。若い人たちや地域の人たちにそんな音楽を聴いてもらい、皆がエエやん言うてくれるようなお店をつくりたい」とBASSさんは期待をふくらませている。お店の角には大きくて真っ赤な中華人民共和国の旗が立つ。「この旗は？」と聞くと、カウンターの中の「パートナーの故郷」ということたえが返ってきた。

このインタビューの数日前、ROSE BARの初ライブを僕は見ていた。この日のゲストミュージシャンはダンシング義隆で、往年、関西を中心に大ブレークした〝誰がカバ〟こと『誰がカバやねんブルースバンド』のボーカルだった人だ。これまで何度か楽塾でのライブ授業をやってほしい、などと話をしていたこともあったが、最近、三星温泉の近くに引っ越してきたというので、いつかライブをしてみたい。

ロックンロールやブルースなどレパートリーは広く、オーディエンスと仲良く楽しんで歌うキャラクターだ。しかし、自作についてはひどく真摯な人で、社会に向き合う姿勢が伝わってくる。宮沢賢治をテーマにした曲を歌ってくれたのが印象的だった。



ROSE BAR

住所：西成区鶴見橋 3-8-19
電話：06-6626-9908
ライブ時間：18:00 〜
チャージ料：1500円

NEST

1.NESTオーナーの梅本昌治さん夫妻
2.ブルースセッション中のトシ新町と田中晴之

なにわ筋から鶴見橋商店街に入って数軒過ぎた右側のお店。6番街の『みの家』のオーナー秋田さん（60歳）から、中川五郎のライブをすると聞いていた。その日、満員だったがライブはまだ始まっていなかった。20人も入ればもういっぱいのカウンターだけの飲み屋で、その扉を開け、最初に目があったのが〝五郎ちゃん〟だった。

45年も前、ベトナム反戦デモの最中、中之島公園などで中川五郎は、ギターを抱えてピート・シガーの「腰まで泥まみれ」や、自作詞の「受験生のブルース」などをよく歌ってくれた。そんな話に「そんなことやりましたねえ。あれは1969年でした」と、筆者のことなど忘れているはずだが、優しく穏やかな語りは昔のままだ。かつてフォークルで活躍し、今は亡き加藤和彦をほうふつとさせる風貌で、端正な姿勢がいい。

みの家でゲストが演奏するのは厨房内である。秋田さんによれば「ギターでの語りなら何の問題もないが、この前なんかバンド3人が入り、おまけに楽器がまた大きいときて、厨房に入るのに苦労した」と笑いながら話していた。

「先日はリリィがゲストミュージシャンでした。ゲストとはどんなかかわりですか」との問いに、桑名正晴や下田逸郎、淺川マキ、リリィらは、秋田さんが勤めていた事務所が一緒で、彼らのロードマネージャーをしていたという。

「4年前、『NEST』の梅本さんとのかかわりのなか、自分もライブのできる店をしてみようと思った」とライブハウスの動機を話している。『ROSE BAR』の時にも話しが出たNESTの梅本さんは、この鶴見橋周辺ではキーパーソンのような存在なのだろう。

「音楽は好きだったが、とくにブルースが好きだった。フォークでは岡林信康が好きで、彼を京都にたずねたその頃、たまたま京都にきていたリリィと知り合った。リリィがミュージシャンとして活躍しはじめた頃やったね」

「開店は2010年12月です。音楽好きなお客さんたちと色々おしゃべりができる。音楽のことをあまり知らない通行人が、たまたまフライヤーなど壁にぺたぺた張ってあるのを見て興味を持ってくれた。それ以来、音楽を真剣に聞いてくれるようになってきた。みの家はジャンルに関係なく、いろいろなミュージシャンに来てもらう。お客さんの年代層は、やはり自分と同世代の人たちが多い」という。ゲストたちの年齢への親近感だろうか。

中川は筆者がリクエストした「おいで僕のベッドに」と「腰まで泥まみれ」を歌ってくれた。この日、ダンシング義隆も来て2曲をサービスし、また、初代「憂歌団」マネージャーであり、日本のブルースブームの火付け役として活躍した奥村ひでまろもいた。彼は11年より西成区鶴見橋に居を移し、自身の60余年にわたる体験を歌い始めている。

みの家

住所：西成区鶴見橋 3-1-14
携帯：080-2533-8970
ライブ時間：19:00 ～
チャージ料：1500 ～ 2000円

『ROSE BAR』から数十メートル西斜め向かいに位置する『NEST』も同じく洋酒バーだ。オーナーの梅本さん（58歳）は、70年代、まだミナミのアメリカ村ができる以前よりディスコテーク『POINT AFTER』を経営し、バンドのライブやダンス拠点として、当時の若者たちが熱狂する場を提供してきた。いわばライブハウスの元祖だ。その後、鰻谷（うなぎだに）に移り、5年前、鶴見橋商店街8番街で祖父が営業していた店舗を再利用し、ブルースを中心としたライブバーNESTを開業した。しかし音楽分野は多彩だ。これまでもロックミュージシャンの桑名正博、ジョー山中（ともに故人）、内田裕也、金子マリらのほか、有山淳二や下田逸郎らのフォーク歌手もゲストとして来店している。

NESTの店内はカウンター席を中心に、数は少ないがテーブル席も設けられており、20人も入ればいっぱいになる。開店は結構遅い。夜も更けた9時ごろから始まったNESTでのライブは、ブルースシンガーのトシ新町で、ギターの田中晴之とデュオをしていた。ブルースのタメ息が演奏され始まると、客席からイエーなどと掛け声が起きる。始まったばかりとはいえもう酩酊状態の聴衆たちで、曲の合間に冗談も飛び交うのだ。一曲終わると、身内の話題などがやり取りされ楽屋オチになったりしている。つまりゲストも聴衆も一定つきあいがあり、つながりのあることがわかる。

店内が混み始めてくると、関わりのあるミュージシャンたちも入ってきて、ゲストミュージシャンが休憩の合間に曲を披露する。ダンシング義隆や、元『憂歌団』のひでまろたちが続いた。ゲストたちは、商店街の通りが見えるガラス窓を背に演奏する。時おり通行人が、窓ガラスに顔をひっつけのぞいていくこともある。演奏者のうしろに背後霊のような顔がひっついて、ちょっとユーモラスなのだ。また、たくさんの空き缶を集めたおっさんが、大八車で通過していくのも見えたりする。

梅村さんは、このさびれた8番街に連合会をつくり、音楽ライブを中心とした月例イベントを計画している。「露店やフリーマーケットで、地域の人や子どもたち、他地域の人たちが集まる場をつくりたい。鶴見橋を知らない人たちが多かったが、おつきあいのある人が、ここNESTに集まってくれるようになった。月1回の催しなので大変だが、ほとんどの店舗が閉まっている状態なので、みんなの協力をえて、賑わいのある商店街にしたい」と話している。

「計画している月例イベントは本年10月5日（日）から始まる予定。若い人たちにボランティアに来てもらい、関心を持ってほしい。それから音楽が大好きだったので、これからも音楽の楽しさをみんなに味わってもらいたい」。

梅本さんの気持ちが、みの家の秋田さんやROSE BARのBASSさんにも伝わっているのだ。

NEST

住所：西成区鶴見橋 3-9-20
ライブ時間：20:30以降
チャージ料：1000円

「つるや」の辻本さん、ご協力ありがとう！

MINOYA

1.バンジョーを演奏する中川五郎
2.みの家オーナーの秋田良康さん

No.15

人と場と動きをバトンタッチで橋渡しする「リレーなびトーク」。今回は懐かしいだけじゃない、住まいとして歴史を重ねてきた長屋を地域に開いたたまり場「玉deサロン」にお邪魔して、落ち着いた雰囲気も楽しみながらおしゃべりしました。前回の寺本良弘さんと、玉deサロンを切り盛りし、地域活動を繰り広げる松本恵実さんの登場です。

プロフィール

寺本良弘
部落解放同盟西成支部長、ヒューマンライツ教育財団の事務局長。地域の想いを丁寧にカタチにしようと、いろんな面から西成を見てきた地域の顔！

松本恵実
西成区玉出で、長屋を手直しした「玉deサロン」を運営。子どもたちが放課後を過ごす「いきいき」や、単身高齢者のつながりづくり事業の「ひと花センター」などのスタッフとしても飛び回るエネルギッシュな地域人です。

寺本：僕が松本さんとお会いしたのは、西成区の区政会議やったかな。「西成では初めて会う雰囲気の女性やなぁ」と思ったんですよ。だから、そのとき感じたパワフルな雰囲気の秘訣と、実際にされている地域での動きについて、今日お聞きしたいです。なんで西成の地域で、自らコミュニティを築いていこうと思われたんかなぁ、と。

松本：私は24年ほどアメリカで暮らしていました。鍼灸師をしていたのですが、一つ思い出されるシーンに、大統領選挙のとき、私の患者さんたちが近所の家をまわって、投票を呼びかけていた姿です。ただ選挙に行こうというだけでなく、オバマ氏への投票をと主張が堂々とあった。アメリカでは、例えば条例などの立法が住民投票で決められるなど、一人ひとりの関心が高いです。一方、日本へ戻ってくると、政治はすごく他人まかせ。

寺本：僕も、地域で運動をしていて、いろいろな壁にぶち当たるけど、自分たちで取り組んでいくことの思いが共有できないとね。

松本：もう一つのタイミングは、両親が年老いてきたので、施設とか調べなきゃと思って見渡してみると、私も周りもまちや土地のことをあまり知らなかったとき。なので、地域を知ろうという動きに、積極的に関わってきました。例えば、その一つが「人情マガジンにしなり」。地域の情報を自分たちで集めて、コミュニティ誌をつくり発信するチャレンジです。

寺本：僕は松本さんに出会ったとき、西成にずっといはった人とは違うなって、思っていました。地域を知ろうという気持ちも、いろんな世界を見てきたからですかね。

松本：あと、「縁」でしょうか。西成に来たとき、近所の人たちが見守るお地蔵さんがいたり、知らない人でも声をかけ合ったり、そんな出会いに、これだ！と思いました。アメリカで感じた自分たちにもできるという世界とはまた違う、気安さや優しさです。

寺本：たしかに、助け合うつながりはあるし、みんなが集まってくる場所も多いかも。ここ、玉deサロンも新しくて面白い居場所ですよね。

松本：「人と人がこんなに親しくコミュニケートしているなんて！」と思ったんです。目指せ、日本、西成化計画です（笑）！人と人が近くなれたらいいなって思っています。

寺本：高度成長期のころって、黙っていてもコミュニティの形成、助け合いが自然とできていたんですよね。たとえば、僕が子どもだったとき、近所の家に自分の茶碗とお箸があったんですよ。緩やかだけど太いつながりが、地域にいっぱいあった。大人になってからも、商店街のおばちゃんが「子ども見といたるから、買い物へ行っといで！」って言うて預かってくれるんですよね。今のスーパーではそういうことできないし。どんどん関わりを薄めて、日本がスーパーマーケット化している。

松本：そういうの、ほんとですよね。関係が濃いと、めんどくさくもあるけど、緩やかにつながって得られるものも多いですよね。

寺本：僕は組織で地域の課題を解決しようと、松本さんはいろんなつながりで地域を元気にしようと、やっているじゃないですか。どっちも面白いなと思うんです。そんな中、こんな地域の捉え方もあるのかと思わされたのが、商店街でやった「かえっこ」ですわ。公園や広場でなくて、まちの身近な商店街でやったっていうのが新鮮。

松本：言いだしっぺかもしれないけど、みんなのチカラで実施しました。商店街は、お店が連なっていて、いつもの時間に、いつもの場所で、同じ人がいるという安心感があるんです。子どもが初めて出会う「はたらくおっちゃん、おばちゃん」なんですよね。やからこそ、お仕事体験で得たポイントでおもちゃの交換を楽しむ「かえっこ」を入口に、商店街が子どもたちの身近な遊び場にもなればなと思ったんです。

松本：これからは地域も子どももコミュニケーションの練習が必要だし、大事なのは「教育」だなと思っています。西成は密な人間関係もあるから、ただ話をするだけではないコミュニケーションが出てくる。聞いたり、伝えたり、議論したりするのもそう。叱ったり、支え合ったりするのも。地域でコミュニケーションできる大人になれる、とてもいい場所やなって思っています。

寺本：全員が同じ価値観に合わせるのではなく、違う価値観を受け入れるっていうことがすごく大事やなって思うんです。そんな多様性を楽しめる大人に、子どものころからきちんと学べる環境って大切ですよね。

松本：そうそう。そんな魅力的な環境がもっと広がって地域の自信になればいいですよね。だから情報を発信したり、居場所をつくったり、子どもたちやおっちゃんおばちゃんが関わり合う場のお手伝いをしたり。あと、いまは商店街や地域を巻き込んで、みんなでわいわいがやがや話し合える場をつくろうとチャレンジしています。

寺本：面白いと思うのは、西成を良くせなあかんと思って人と、良さを見つけて伸ばそうとする人が、育ってくるんですよ。たとえばココルームの上田假奈代さんも。そういう人がたくさんおる。その人たちが頑張っているからこそ、次は僕たちで呼びかけて「西成サミット」みたいなことをやってみたいなと思ってるんです。

松本：ひとりでもふたりでも、呼びかけて集まりができたら面白いなって思います。ぜひやりましょう！

次回は11月号。ホストを松本さんにバトンタッチ。

「なび」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。
多様につながる実践を紹介していきます。

ナイスな仲間たち

VOL.07 西成支部青年部

若者たちで学びつなぐ

西成支部青年部では、毎月第2水曜日に「青年部連続学習会」、第4水曜日に「西成若者塾」を開催しています。

先輩達から青年部活動を学ぶ【青年部連続学習会】

青年部連続学習会は、西成支部青年部に所属する青年を対象に、寺本支部長や赤井副支部長（大阪府連書記長）をはじめ西成支部の先輩達を囲んで学習会を行っています。先輩達から運動にかかわった経緯や当時の青年活動の様子について教えもらうと同時に、今後の青年部活動の在り方についても様々なアドバイスをいただいています。

地域で「働く人」たちと若者をつなぐ【西成若者塾】

西成若者塾は、地域の様々な活動で関わりのある若者を対象に、主に西成区北西部の地域で働く人達を講師に招いて学習会を行っています。人生経験豊富で職業も様々な講師達の話は、毎回衝撃的な内容が連発します。それを楽しみに参加している若者もいます。西成若者塾は、そんな地域の人たちとの出会いと自身の人生観を養う場となっています。

（西田　吉志）

西成支部青年部
〒557-0025
西成区長橋3-7-28 ブランコート2階
電話：06-6651-8800　担当：西田
E-MAIL：nishida0429@yahoo.co.jp

[四井恵介]先日ふらっと入った天六の昔からやってそうな喫茶店。バレエのポスターがいろいろはってるので話をきくとオーナーの娘さんがボストン・バレエ団のプリンシパルだという。どんな街でも世界とつながっている。

[飯田沙保里]朝晩が冷えるようになったので、そろそろ半袖で寝るのをやめなければ風邪をひきそうです…

いい湯かげん

分かちあう大阪、わかりあう政治

振り返ってみれば、同対法が終結して12年になる。西成の被差別部落も様変わりした。ボク達は、同和事業に代わる「地域の経済」を求めて、社会福祉法人や社会的企業で介護等都市生活産業を興し、40億円程の事業を創出した。この「地域経済」を「縦軸」にしてみる。事業は興したが、かつての解放会館は名称を転々とさせながらいま廃館の危機にあり、せっかくの事業を住民が使いこなせていないと反省して、総合相談と居場所を再生する「西成隣保館（仮称）」を構想しているが、これはいわば「横軸」になる。

縦と横が揃えばそれで良いわけではなく、「ひと」の役割が欠かせない、これがいわば「斜軸」になる。「ひとの役割」にも三つあって、一つは「人の生活者」としての役割で、「自助」である。地域の福祉で働いてみたいと考えることなどがそれにあたる。二つ目は「地域の住民」としての役割で、「共助」である。町会の役員を引き受けたりするのがそれだ。三つ目は、ちょっとわかりにくいかもしれないが「社会の構成員」としての役割で、「公助」である。選挙に関心を持ったりするのがそれにあたる。この三つの分野で「ひと」が動くことで、地域の経済や、地域の居場所を好循環させていく「民意」が形成されていくのだと思う。

この「斜軸」にあたる「この指とまれ」がないんじゃないかと心配して、今度「井戸端会議」みたいな場をこさえようということになった。「フォーラムにしなり（仮称）」というもので、毎月1回、わいわいやってみることになった。

その昔、西成の北津守で、公営住宅での高齢者の孤独死があって、地域の人たちがわいわい語り合って、高齢者を誘った「お食事会」を始めたが、これが社会福祉法人設立の源になった。この時、地域のおばちゃんがささやいたのが、「これからの福祉は、やってあげるやってもらうではなく、やっていこう」だった。そして、これが地域の「民意」になり、いまも語り継がれている。事業があるだけでも、居場所があるだけでも足らない。こういう「民意」になっていってはじめて、「福祉が地域に生きる」。もちろん、いくら制度やサービスがあっても、「ひと」が良くも悪くも変えてしまうということとも同じ意味だ。

ましてや、経済成長であり余る富があった時代は、「分ける」のも容易だったから福祉も話が早かった。これから日本も大阪も成長が止まって見える時代になるし、もうそうなっている。そうすると、「分ける」ためには「わかりあう」ことが必要になるし、その時間を惜しんだら福祉も実現しない。地元の小林道弘市会議員は、事務所の看板に「分かちあう大阪、わかりあう政治」と大書してこられたが、先見の明があったのだと思う。

㈱ナイス代表取締役
冨田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[平川隆啓]オリ天バルに行ってきました。飲むのが好き、船頭好き、地元好きな人など、人情マガジンにしなりメンバーが集結。そのごちゃまぜ一団に吸い寄せられ!?初めましての人も一加わり、食べ飲み歩きを満喫。

[近藤彩]仕事部屋キャットタワーを導入しました。一応遊んではくれるものの、まだまだ今までの段ボール箱の方がお気に入りの様子。愛用しすぎて、フタが彼女の形にひしゃげています…

ある日のRON

今月の花：菊（きく）

花言葉「高貴」「高尚」「高潔」
秋を彩る、日本を象徴する花です。天皇家の家紋にもなっています。最近までは菊人形もありました。お供えの花としても使われています。

この町も最近静かになったなとよく感じます。ケンカもなく酔った人も少なくなりました。ただ外国人の方がすごく多くなりました。ドヤをホテル代わりにしているらしく、色々な国の人に、道をたずねられたりします。その都度「もっと英語勉強しておいたら」と反省します。ハローとサンキューはわかるんだけどな～悲しい。

（なんばひとみ）

ピースのつぶやき

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

『ネコのお巡りさん♪』

迷子になった夢を見た。
知らない町を、
独りでテクテク歩いていた。
知らない匂いを、
独りでクンクンかいでいた。
知らない景色を、
独りでジーっと見つめていた。

不安な気持ちを、
独りでグッと我慢していた。
あふれる涙を、
独りで拭いていた。

すると、「どうしたニャー？」
っと声がした。

見上げると、ヒゲが立派な
ネコのお巡りさんが
立っていた。

ホッとして目が覚めた。

それから町で
ネコ様に会うたびに、
おじぎをしている私だワンワン。

赤井まゆみ

枝葉末節

『歴史』

Hidarmakiです。
仲秋の満月の日に詠む。
十六夜(いざよい)の
月に彦星
仮初の恋

遮断と密閉の社会、自国を中心とした世界、そして独自な伝統と文化を養った市井（しせい）。私たちの国にはそんな鎖国という時代があった。だが幕藩体制という制度の崩壊から開国し、明治政府が樹立され現在に至る歴史は僅か150年である。

江戸幕府は、ペリー来航より30年も以前に異国船打払い令を沿岸諸大名に発令している。その頃には、日本近海に外国船が頻繁に出没し、幕府は即時撃退せよと命じていたのだった。そして国内では天保の米価高騰による一揆や打ちこわしが多発し、そのうえ、天保年間に連続した大飢饉の追い打ちが、人々の生活を飢餓と貧困で苦しめ続けた。

暮らしの荒廃と疲弊は、大塩平八郎の叛乱や、各地で頻発した百姓一揆、打ちこわしなどでエスカレートしていった。大塩事件後に起きたモリソン号来航は、鎖国という政策の象徴的な事件だった。日本人船乗り7名が漂流し、米国商船モリソン号に救助された。モリソン号は漂流民を日本に返還するため日本に近づいたが、幕府は、異国船打払い令の適用により、同船に砲撃を加えて漂流民受け入れを結果的に拒否したのである。

この事件を批判した蘭学者高野長英や渡辺崋山らを、幕府にとっての南蛮学門は、野蛮で国のためにならない学問として弾圧し、蛮社の獄として恐れられた。異国への排外政策が強くなるなか、水野忠邦の天保の改革以降も外国船の日本来航が頻繁となり、その後異国船打払いを緩和していかざるをえなくなるが、開国はあくまで拒絶の姿勢をとった。

江戸幕府が、世界に強い力を持つ国のあることを強く認識したのが、4隻の軍艦に乗ったペリーの来航で、初めて世界の驚くべき軍事力を知ったのだった。その後幕府は、安政元年の日米、日英和親条約や、同5年の米、英、蘭、露国などの修好通商条約に調印した。それは、武力を背景にした諸外国の圧力外交であり、幕府は屈辱的選択であった。それでも彼らを相手に、初めて条約や協定のための交渉をしなければならなかった。それが幕末期のわが国の姿であり、鎖国が終わり、異国を受け入れた瞬間でもあった。

これらの修好通商条約の締結に、親藩である水戸藩を中心とする攘夷派たちが抵抗した。

元徳川斉昭藩主以下、多くの藩士たちが、天皇の勅許を無視した調印は無効だとただし、時の大老井伊直弼は、斉昭や越前藩主の松平春嶽ら多くの主要な幕閣を処分し、吉田松陰らが死刑となった。これが安政の大獄だが、この結果、井伊は攘夷派の水戸浪士らに桜田門外で襲撃され落命。幕府はますます強行な姿勢で攘夷浪士たちを取り締まっていく。

しかし、この裏でもうひとつ幕藩体制の葛藤が進行していた。14代将軍の世継ぎ問題が幕府を揺るがす震源となっていたのだ。その世継ぎは、紀州家の家茂とともに一橋家の慶喜が目されていたが、結果として徳川家茂が第14代を引き継いだ。水戸家にとっては家督問題から離脱させられたことと、幕藩体制からも干されたことで、ますます攘夷思想を養っていくのである。しかし、その後はアメリカ領事ヒュースケンや、外国人殺傷、薩摩藩主行列を邪魔した英国人たちを処断した生麦事件など、外国人殺傷事件があとを絶たず、幕府は後始末に苦慮する。追放されていた松平春嶽や慶喜らが幕閣に復帰し、薩摩藩提議の公武合体を受け入れ、幕府の命脈をはかろうとした。しかしそれもかなわず、薩長の密勅により15代将軍徳川慶喜が大政奉還を宣し幕政を投げ出し、戊辰戦争の終結が、薩長連合によって王政復古という、大仕掛けな権力機構を作りあげたのである。

こうした外国の脅威にさらされながらも、国体維持のために開国し、幕藩体制を堅持しようとした幕府に対し、攘夷と騒ぐ勤皇浪士たちが、下関戦争、薩英戦争など諸外国相手に完敗し、いつの間に攘夷から開国を叫び洋風軍隊を組織していく。それは、大戦中に鬼畜米英と叫んで大負けし、戦後の洋式憲法を拝し、民主主義に親しんでいく歴史と似る。

メイフラワー号で大陸に到達した米国は、建国後わずか230余年で、星条旗を掲げて鎖国のわが国に大砲を突きつけ上陸した。日米の付き合いは安政元年の日米和親条約以来だが、軍事力による国家的優位性は今も変わらない。私たちは敗戦後、米国に従属しながら国家的繁栄を享受した。

集団的自衛権で語られる他国の脅威というアジテーションは、つまりは米国の軍事戦略が背景であり、新たな戦争の火種を作り出し、今も沖縄を道連れに、東アジアを分断排斥し、現代の攘夷思想がまかり通る。星条旗は米国民すべての象徴だが、その星のひとつが日本というわけではない。時が私たちの歴史的背景を俯瞰させ、歴史と現在に共通する重なりを見せるときがある。

hidarimaki

思いたったら！にしなりカレンダー

「地域で縁を楽しむ」編

ライブでつながる

ながいよう with 加那、李知承、丸岡マルコ淳二 ライブ

音楽酒場みの家で美味しいお酒とごはんを楽しみながら、ジョイントライブ！いろんな音楽仲間に出会おう。

日時：10月26日（日）
場所：みの家（西成区鶴見橋3-1-14）
問合：080-2533-8970

第2回西成ジャズ・オールスターズ～夢の祭典～

2回目となる西成ジャズ・オールスターズが開催！西成の立呑み難波屋、おでん成田屋、Donna Leeなど、西成の投げ銭ライブに登場してきた出演者たちが、20近くのプログラムで西成ジャズを披露する2日間。Donna Lee（天下茶屋北1-1-5）では西成ジャズ写真展も同時開催です。

日日時：10月12日（日）・13日（月・祝）15:00-
場所：難波屋（西成区萩之茶屋2-5-2）
当日：1200円（前売り1000円）
問合：080-6113-4254
WEB：http://nishinarijazz.blog133.fc2.com/

商店街で地域のふれあい

商店街de似顔絵イベント

ラッキー植松さんの似顔絵イベント。楽しみながら商店街を散策してみませんか。

日時：10月16日（木）13:00-16:30
場所：玉出北商店会

商店街deハロウィンイベント

撮影スポットや、ファッションショーなどなどお楽しみがいっぱい！商店街を満喫しよう。

日時：10月25日（土）
場所：玉出商店街

地域のみんなと運動会

西成大好きふれあい運動会

乳幼児と保護者と地域みんなのイベントです。親子をはじめ、おじいちゃん、おばあちゃんも、いろんな世代が出会うミニ運動会！

日時：10月22日（水）10:00-11:30
　　※雨天の場合：24日（金）
場所：梅南多目的スポーツ広場（西成区松3-3）
問合：西成区こども・子育てプラザ
TEL：06-6658-4528

ギャラリーで発見

朝描き倶楽部 ボンジュール展

北村信明・奈路道程・松田学・見杉宗則・宮本ジジ・山本弘子

さまざまに活躍する6人のイラストレーターが集まって描くサークル「ボンジュール」初のグループ展。6人6様の自由な個性に刺激を受けて、新しい自分に出会う機会に。

日時：10月11日（土）-19日（日）
　　13:00-19:00（最終日17:00）
場所：ギャラリーあしたの箱（西成区岸里東1-6-7）
TEL：06-6659-8892
WEB：http://www.ashitanohako.com/hako/

堀としかず個展 ～ white ～

何処にもない風景なのにきっと何処かに在って、見る人をそこへ誘う…。独自の幻想的で繊細な世界に出会えます。

日時：10月25日（土）-11月3日（月・祝）
　　13:00-19:00（最終日17:00）
場所：ギャラリーあしたの箱（西成区岸里東1-6-7）
TEL：06-6659-8892
WEB：http://www.ashitanohako.com/hako/

あとがき

10月号から新特集Heart & Soulが始まりました。西成界隈のいろんな“エンタメ（縁ため）”の場を取り上げ、行き交うひとやお世話役のみなさんの声をお届けします。地域善隣事業や生活困窮者自立支援事業などなど地域への高まる期待の中で「コミュニティ（縁）」を紡ぐ場の“いま”が少しでも伝われば。「こんな穴場もあるよ～」という方は、ぜひ編集チームにご紹介ください。

（田岡 秀朋）

なび10月号（vol.92）
発行日：2014年10月10日（創刊日：2007年1月1日）
発行：株式会社ナイス
発行人：代表取締役 冨田一幸
印刷：有限会社前山企広
住所：大阪市西成区長橋3-6-33　電話：06-6563-1156
E-mail：info@nice.ne.jp
url：http://www.nice.ne.jp/

編集長：佐々木敏明
編集：田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里
イラスト：hidarimaki
デザイン：近藤彩、高橋静香

表紙の写真：「秋野菜と長屋」西成区玉出（玉deサロン）で撮影